
笑顔

寿々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑顔

【Nコード】

N8579A

【作者名】

寿々

【あらすじ】

大晦日の十番隊と五番隊の話。「笑顔って、人を幸せにするものなんだろうね」

大晦日

って

一体何の日なんだろう・・・？

「そりゃー、隊長、掃除の日なんじゃないですかー？

それか今年最後の日か、正月の1日前」

「掃除はもつと前の日にしとくもんだろ！！」

日番谷が乱菊に怒鳴った。

「だって、十一番隊と遊んでたから」

悪気が全くない乱菊は、書類を片付けながら言った。

「しゃあしゃあとそんなこと言いやがって・・・」

「必要ですよー。休みだって。ここ1週間くらい休みなしで・・・」

「毎日酒飲んだからな」

「あ、えつとお・・・そうそう、それ。大当たりです」

「てめえ・・・」

日番谷の堪忍袋の緒が切れる前に、どうにかこうにか掃除が終わった。

あたりはもう真っ暗だった。

「日番谷くん。おじやましていいかなあ??」

扉の向こうから声がある。五番隊副隊長雛森桃だ。

「乱菊さんがねー、一緒に年こそうって。藍染隊長もいるんだよ」

「はいはい。どうぞ。ついでに、日番谷くんじゃなくて日番谷隊長だ！」

別に

大晦日だからって

特別する事もないし
はつきり言つて
凄く退屈

「日番谷くん、退屈かい」
隣にいた藍染が笑つた。

「・・・なんとなく」

また、藍染がははつと笑つた。

「・・・んだよ・・・」

「キミらしいなと思つてね」

「じゃ、あんたどーなんだ？」

きよとした顔をしたが、すぐに答えが返つてきた。

「一人だつたら、退屈だろうね。でも、雛森くんがあんなに楽しそうなんだ。僕も楽しくなりそうだな」

顔を傾けてみると、乱菊と楽しそうに笑い転げている雛森がいた。

「笑顔つて、人を幸せにするものなんだろうね」

笑顔・・・ね

そういや

護廷十三隊に入ってから

笑つたことないかも

まあ、その前から

そんなに笑うことなんてないけど

ゴーン、ゴーン・・・。

「あゝ。鐘がなつちやつたゝゝあ。じゃ、乱菊さん！あけましておめでとうつ！」

「うん！あけおめゝつ」

「隊長、あけましておめでとうございます」

そういうと、乱菊は日番谷の前に手を出した。

「なんだこりゃ？」

「お年玉」

「ふざけんじゃねえ！」

乱菊がけたけた笑う。雛森がにこにこして日番谷を見ている。
日番谷も、つられて軽く笑った。

「ね、笑顔って、人を幸せにするだろ」

「・・・・・・・・・・そうかもな・・・・・・・・・・」

外に出たら

星が瞬いていた

そして、目の前に3つ

まぶしく瞬いている星がある

俺は、この星たちと一緒に

いつまでも、いられるだろうか

そばで、いられるだろうか・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8579a/>

笑顔

2010年10月11日03時24分発行